

シグマ研究委員会
元年度第1回運営委員会議事録(案)

日時： 1989年4月28日(金) 13:30-17:30
場所： 日本原子力研究所 本部第3会議室
出席者： 鹿園(委員長、原研)、北沢(東工大)、中嶋(法政大)、
五十嵐(原研)
幹事： 中島、菊池(原研)
オブザーバー： 飯島(NAIG)、松延(住原工)、井頭(東工大)

配布資料

1. 63年度第7回運営委員会議事録(案)とアクションリスト
2. 第3期諮問調整委員会答申
3. ENDF/B-VIの状況
4. 63年度シグマ特別専門/研究委員会議題
5. 評価国際協力タスクフォースへの委任事項案(J. Rowlands)
6. 評価国際協力タスクフォースへの委任事項案への返答
7. 評価国際協力ワーキンググループへの委任事項案
8. JENDL-3のガイド
9. ITERとFENDLの関係への疑問
10. JENDL-3特集記事(案)
11. 核データ調査活動報告書
12. 1989年度核データ研究会の計画(私案)
13. 核データにおける日中協力

議事

I. 前回議事録確認

資料1を確認した。

II. 報告事項

1. 事務局報告

(I) 人事関係

中島豊氏を運営委員会幹事にすることが承認された。また石井物理部次長を本委員及び専門委員に推薦することが了承された。本委員会での承認後発令される。

(II) その他

- ・ Hodgson氏(Oxford)が9月末から10月に来日。
- ・ Tuli氏(BNL)が5月22日に来所(本部)。
- ・ White氏(ORNL)が5月24-26日来所。

2. 宿題事項の処理

(1) 学会誌特集記事の執筆者(菊池氏)

討議事項5で行う。

(2) 核データ専門部会の組織(専門部会)

討議事項の3で行う。

- (3) 核構造・崩壊データ専門部会長交替（中嶋氏）
吉田正氏（NAIG）に交替する。
- (4) JENDL-3のソフトウェア登録のメリット（菊池氏）
菊池氏から、ソフトウェアの著作権法上の取扱いの説明があり、（Ⅰ）著作権は登録の有無に係わらず発生すること、（Ⅱ）登録は権利を譲渡される側の第三者対抗には有効であるが、作成者側にはさほど有効でないこと等から、JENDL-3にとってのメリットは少ないとの報告があった。
- (5) 核データ評価国際協力に関する答申案の検討（各委員）
水本氏欠席のため次回に。
- (6) 本年度会合開催予定（事務局、専門部会長）
5月中に部会長と議論し、次回に諮る。

3. 諮問調整委員会報告

第3期諮問調整委員会報告を資料2に基づいて議論した。内容はすでに実行に移されている。

第4期諮問調整委員会（木村委員長）では、JENDL-3までの総括と、今後の活動のあり方について議論している。

これらに関連して、以下の議論があった。

- *原研の今後の核データ測定のある方。
- *日本での崩壊熱測定をどこでやるのか。
- *原研で核分裂の測定を何故やらないのか。
- *核データとプロジェクトを関係付ける原研内のプロセスはどうなのか。
- *核データ測定の国内のリクエストリスト（国内版WRENDA）を考えてはどうか。

4. CSWEG報告

五十嵐氏が深堀氏からの手紙に基づいて報告した。レビューを非常に重視しているのが印象的である。

III. 討議事項

1. 本委員会準備

資料4の昨年の議題を参考に議論した。

特別講演の候補としては、JENDL-3、核分裂発見50周年、評価国際協力などが挙げられ、次回までに検討することとした。

2. 1989年核データ研究会

資料12に基づき、井頭氏が私案を説明した。

これに対して以下のコメントがあった。

- *核分裂のレビューは人選が大切である。
- *JENDL-3の微分側からのレビューも必要である。
- *日中協力強化のために中国からの参加を呼びかけたい。
- *中国だけを呼ぶのは無理がある。開催通知はアジア諸国にも送っている。

3. 専門部会計画

核データ専門部会の改組案を承認し、本委員会に諮ることとした。

4. 核データ評価の国際協力

資料5、6、7に基づき、五十嵐氏からタスクフォースの委任事項とそれに対する核データセンターの見解について説明があった。日本としては、JENDLの維持、シグマ委員会のワーキンググループの開催形態、ベンチマークテストのデータの公開性などに問題意識を持っている。

これに対して以下の議論があった。

- *崩壊データ、核分裂収率、核反応エネルギー等は、全世界的なスコープでやるべきである。
- *やる以上は、主要なワーキンググループのリーダーを取るべきである。候補としては、重核、FP、軽核が挙げられる。

5. JENDL-3の国内利用促進

五十嵐氏から、資料8に基づき、JENDL-3の国外利用の例外として、中川氏のNEA Data BankでのJEF-2との比較プロット作業とFENDLへの提供を認めるとの説明があった。またこれに関連し、資料9により、FENDLとITERの関係についての問題が指摘された。

菊池氏から資料10に基づき、学会誌の特集記事の目次案が示された。議論の結果、概要をまず先に書くこと、崩壊熱を含めることに修正された。

PNCにおいて、実証炉の設計は、JENDL-2の修正したものを使う意向が示されており、核データセンターへの依頼もこの関係の作業になりそうであることが報告された。これに対して、JENDL-3を利用してもらう方策が議論された。主な意見は以下のとおり。

- *修正の結果はJENDL-3に近くなると思われるので、JENDL-3を使うように働きかけるべき。
- *FP, Minor Actinideから食い込む。
- *JENDL-3の良さをPNCにPRする機会を増やすべき。
- *原研の理事からPNCの理事に働きかけてもらう。

6. 日中協力について

資料13に基づいて、菊池氏から日中協力の強化法の説明があった。出来ることから実績を積んで行くことで合意された。

IV. 確認事項

1. 宿題事項

別添のアクションリストを確認した。

2. 次回日程とオブザーバー及び本委員会日程

*次回運営委員会 6月9日(金) オブザーバー: 飯島、吉田、松延各氏

*本委員会 6月23日(金)

アクションリスト

No	担当者	内容	期限
1	事務局 部会長	専門部会のメンバーと開催予定案を決める。	次回
2	全員	本委員会の議題を検討する。	次回
3	全員	核データ評価国際協力に関する答申案を検討し、水本氏に伝える。	次回
4	事務局	運営委員会のメンバー案を作成する。	次回